

の無償化、3人目の無料化をお願いに行きました。田辺市の担当者から「前向きに進めている。皆さんからの署名も受け取りました」との回答がありました。

また、園児が減り、保育所が縮小になると悩んでいましたが、受託業者の法人が心配し、「子どもが減っても、契約は3年間であり、保育士はそのまま雇用継続となる」ことを施設課長に確認を取り付けてくれました。

私たち保育所職員の賃金・労働条件の改善も強く訴え、調理師職員の補充も前向きに施設に交渉してくれ、ボーナスのアップも実現しました。



三者が協力し合い、進めていこう

今回は保育所の方から保護者、組合、地域の組織に相談することで、病院と受託業者を動かすことができました。今まで交渉などで色々なことを学んできた成果だと思っています。そして、保育所は100%組合員です。今、保育所職員は生き生きと働いています。これからも組合、保護者、保育所で協力していきたいと思います。

(全医労南和歌山支部「はまゆう保育所」
園長・玉田幸子)

中央労働委員会

株式会社キッズコーポレーション争議あっせん終結

受託業者の一つである(株)キッズコーポレーションとの中央労働委員会によるあっせんが2月4日に終結しました。10月17日、(株)キッズコーポレーションは中央労働委員会にあっせん申請を行いました。全医労はこれまでのキッズの不誠実な対応に救済申請を準備していましたが、一日も早い労使関係の正常化を求め、あっせんに応じることとし、1月21日、2月4日と2回のあっせんに臨みました。

あっせんは、ほぼ全医労側の要望をキッズ側が飲む形で、労使双方があっせん案とコミュニケーションルールを確認し、受諾。「団体交渉には交渉権限を有する者が出席し、誠実な団体交渉を行うこと」等が盛り込まれ、「あっせん案やコミュニケーションルールの文言にこだわって、今後の労使交渉を損なうことのないよう、誠実に団体交渉を実施すること」等の公益あっせん員の口頭発言メモも確認しました。

メモには2018年冬季賞与、2019年度の労働条件についても早急に協議することが盛り込まれています。ストップしていた窓口も再開しました。今後、保育所の山積している問題を早急に改善すべく、キッズとの労使協議を進めていきます。